

稲作管理特報

令和6年6月10日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

今年の稲の生育は、平年と比べてやや遅く、茎数は少なめとなっています。
中干しまで浅水管理に努めましょう。
また、米の品質を高めるには「根づくり」が重要です。適期の中干し開始と中干し後の間断かん水で「根づくり」を行いましょ。

【コシヒカリの生育状況 6月4日現在 10ヶ所】

年次	田植月日	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色
			本/株	本/m ²		
R6	5/12	26.8	7.5	155	5.7	4.0
平年	5/12	28.9	9.4	194	6.4	4.1

1 「溝掘り」と「中干し」の実施と水管理

本年は茎数を確保するため、中干しまで2～3cm程度の浅水管理で分けつの発生を促進しましょう。
溝掘り・中干しは、例年より少し遅く行いましょう。
目安として、田植後1か月頃から止水・落水し、適度な土壌硬度を確保した上で、溝掘りを行い、そのまま中干しに入りましょう。

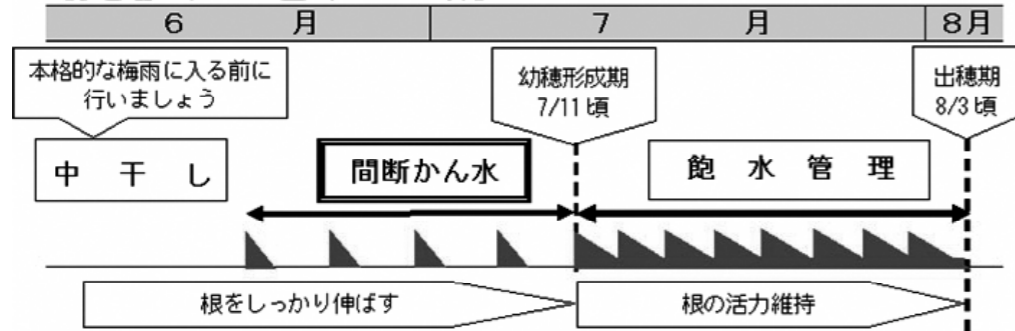
【中干し】



中干しは、本格的な梅雨の前にしっかりと干し上げましょう。中干しの開始が遅れると根の伸長が不十分となり、米の品質低下につながります。

中干しは小さなひび割れが入り、長ぐつの跡がつく程度まで干しましょう。
中干し後、幼穂形成期までは1日湛水、2～3日落水の「間断かん水」で、根に酸素を与え、伸長を促しましょう。(※目安は足跡の深さ3cm以内に地固め)

【水管理のイメージ図 (コシヒカリ)】



※「飽水管理」(足跡に水が残る程度の状態になったら入水する、稲が水分不足にならない水管理)

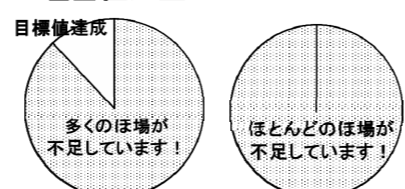
2 「エスアイ加里らくだ」の施用

管内の多くのほ場で「ケイ酸」や「カリ」が不足しています。「ケイ酸」や「カリ」の施用により、稲の受光体勢が良くなり、登熟が向上することで白未熟粒の発生抑制に繋がります。

「エスアイ加里らくだ」を積極的に施用しましょう。

施用時期：6月20～25日頃
施用量：15kg/10a

塩基性加里 有効態ケイ酸



JA みな穂管内土壌調査結果
[令和4年11月]

「間断かん水」と「飽水管理」で、夏の高温に負けない根づくりを!

3 中・後期除草剤の散布

中干し後に雑草の発生が多い場合は、草種と葉齢に合わせて、遅れずに除草剤を散布しましょう。

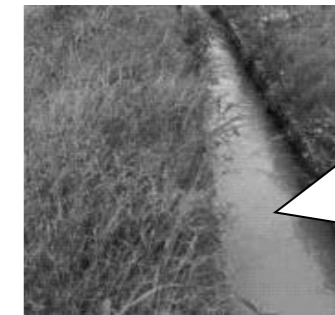
対象雑草	農薬名	散布時期	10a 当たり散布量	使用回数
ノビエ	トドメMF1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ5葉期 (収穫50日前まで)	1kg	3回以内
ノビエ 広葉雑草	アクシズMX1キロ粒剤 (湛水して散布)	田植後7日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	1kg	1回
	レプラスジャンボ (湛水して散布)	田植後14日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	パック10個 (400g)	1回
広葉雑草	バサグラン粒剤 ※ (落水して散布)	田植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	1回

※:バサグラン粒剤は、2日以上晴れ間が続く日を選んで散布し、散布後3～4日は入水しないでください。
また、雑草が局所的に多発生している場合は、その部分へのスポット処理ができます。

4 カメムシの発生防止

斑点米カメムシ類の発生は平年より早く、発生頭数も多い状況です。斑点米カメムシ類の住みかとなる雑草地や畦畔の草刈りを徹底しましょう。

草刈り後は、雑草の穂が出ないように管理しましょう。



農道や畦畔のイネ科雑草はカメムシの餌場&生息地!



令和6年度水田畦畔等草刈り動運動期間と一斉草刈り日
運動期間 6月28日(金)～7月7日(日)
一斉草刈り日 6月29日(土)～30日(日)

～草刈り作業時の留意点～

例年、草刈り作業時における農作業事故が多発しています。草刈り作業を行う際は、周囲の安全を確認し、怪我や転倒等に注意しましょう。

多発する事故の例	対処方法
刈り刃への接触・巻き込まれによる事故	ヘルメット、ゴーグル・フェイスガード、すねあてなどの防護の徹底と飛散物カバーを外さないようにしましょう。
飛散物による事故	
キックバックによる事故	確実にエンジンを切って取り除きましょう。
刈刃に草などが詰まった際の事故	

※熱中症対策として、こまめに休憩を取り、水分補給を行いましょ。

主な情報提供内容

★JA みな穂営農情報メールを配信しています。
・水稲・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
・気象情報と災害防止の対策
※右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

